

令和元年度 都留市公立大学法人評価委員会第1回会議の審議要旨

日 時	令和元年8月5日(月) (午後2:00~4:16)
場 所	市役所3階大会議室
出席者	原護委員長、小俣政英委員、村田俊也委員、川村直廣委員、
説明者	福田学長、阿毛副学長、新保副学長、深澤事務局長
(法人)	矢嶋大学総務課長、石川大学経営企画課長、藤江大学学生課長、 横瀬大学経営企画課長補佐、高部大学学生課長補佐、教職担当 上野、 入試担当 亀田
事務局	小宮総務部長、山口企画課長、亀田企画課長補佐、中野企画課長補佐 企画課企画担当 三澤、鈴木

会議の概要

(午後2時00分開会)

- 1 開会 (司会 小宮総務部長)
 - 2 あいさつ 堀内市長、福田副理事長
 - 3 委員紹介
 - 4 出席者紹介
 - 5 議題 原議長より本日の議題の内容を説明
 - (1) 平成30事業年度法人の業務実績に関する評価について
 - (2) 第2期中期目標に係る業務の実績に関する評価について
- (1) 平成30事業年度法人の業務実績に関する評価について
大学事務局が、平成29事業年度にて評価の低かったもの(指摘事項)について事業改善等の状況を説明。(石川経営企画課長)

○各委員からの意見等

(川村委員)

TOEICなどの学生の成績などは把握しているか。

⇒入学時に点数などは把握している。各学部の点数を説明。(石川経営企画課長)

(引き続き、事務局より平成30年度業務項目別評価について説明。)

○各委員からの意見等

(村田委員)

・評点が1や2のものについて、改善策を出してもらいたい。

⇒来年度以降、加筆し提出を行う。(石川経営企画課長)

(村田委員)

・中間見込と事業報告で評点の異なるものがあるがどのように違うのか。

⇒中間見込という視点で見ているので、現状ではなく取組がどう影響するかなどを踏まえ点数をつけている。(石川経営企画課長)

(小俣委員)

・研究について1の評点がついているが、大学ではどのような改善策を考えているか。

また、地域の空き家などを有効活用しつつ研究はできないか。

⇒研究については都留文科大学の資金の研究と、国の資金を使っているものがあり、国の科研費などの資金を使った研究の申請件数が少ないところである。しかし、数値的には目標には届いていないが着実に申請件数は増えている状況である。事務的な支援も含め、今後さらに充実を進めていきたい。(矢嶋総務課長)

・どのように研究の成果を判断するか。また、一律ではなく成果によって金額を変更など行っているか。

⇒専門家のいる学会等で研究成果を発表しているが、効果的に使われているかなどの検討は行っていない。また、地域貢献については採用の際に電車通勤できる範囲とされている。研究については各研究者に任せており、地域密着型の研究で住んでいる者もいるが、大学で指定や補助などは難しい。(阿毛副学長)

⇒地域に密着した研究に期待したい。(小俣委員)

(川村委員)

・GPAが低い学生について総合的に検討するとは、どのような検討か。大学生であれば成績が低い者に対してそこまでケアする必要があるか。

⇒オーストラリアなどでは成果が上がらなければお金を返してもらうなどの制度があるが、日本では面談などに留まっているケースが多い。(福田学長)

⇒GPAの低い学生は精神的に疲れているケース、アルバイトを入れすぎているケースなど、大学に来られないケースがほとんどである。事情を聞く上で対処が必要である。

(教職担当上野)

・在校生の満足度調査について、どのようなことに満足し、何に不満を感じているのか。また、アンケート結果はもう出てきているのか。また、どのように活用しているか。

⇒結果は出てきているが内容は本日持ち合わせていない。(石川経営企画課長)

・挫折する学生はかなりいるのか。

⇒大学内で心の病により退学、休学などが増えており、少しでもケアできるよう対策している。貧困によるアルバイト、または、留学により休学などもサポートできるようにしている。(藤江学生課長)

・減免や奨学金の実態について教えていただきたい。

⇒日本学生支援機構の貸与型奨学金においては4年間で平均220万円程度借り、返せないケースがあるというのは伺っている。来年から国では給付型(返さなくてよい)奨学金の運用が始まる関係で都留市に申請しているところであるが、実施に向け進めている。(藤江課長)

(村田委員)

・学生の意欲についてTOEFLの受験数や教員免許の取得率が下がっているように見受けられるがどのような状況か。社会の要請の受け答えや学生のやる気は上がっているのか。

⇒最近、成績の良い学生が親の期待に応えられなくて自殺するなどが出てきているので、やり方は非常に難しい。社会に出て使える英語を目標にしている。テストの点が高くても実際には使えないケースも多いので使えるように切り替えている。また、近年ヨーロッパの留学が増えており、ヨーロッパはテストではなく授業を受けられるかで判断しているという点でもテスト受講者が減少しているのではないかと思われる。(福田学長)

⇒教員免許については社会的にブラックと呼ばれ希望者が減ってきている。しかし、1万人近く、教員が不足しており、少子化により教員が余るのではなく教員が足りていない状況であるがそれ以外で就職が出来てしまう。(福田学長)

(小俣委員)

・合同庁舎の跡地の利用は考えているのか。国際交流会館の利用が最近減ってきている。留学生の宿舎を新しく作る話なども聞くがどうなっているか。

⇒合同庁舎跡地は、市と協議を重ねる中で検討してきている。既存建物の有効活用を考える中、整備費用が想定より大幅に増えることなどを踏まえ、再構築していく予定である。大学の将来構想を見据えながら、今後の施設整備計画も含めて慎重に検討していく。

(矢嶋総務課長)

⇒国際交流会館の深刻な状況の現状は、今年からアメリカ等では日本の経済状況を鑑み、日本語を勉強する人はいなくなってしまった。アメリカから来なくなったことにより、お八朔等の地域貢献も難しい。交換留学先をヨーロッパに変更していく必要がある。交換留学は難しい。もう一つの方はEUがお金を出してくれていること、北欧は教育に力をいれており学生は国から20万もらって無償で来ている状況なのでそちらに切り替え

で考えている。新校舎は、他大学にはない新しい施設をつくっていきたいと考えている。長期視点での練り直しをしていかないと厳しい。都留市に必要な人材育成では少し視点が小さいが、産業を起こしながら、そのような人材育成をしていく必要がある。新しい学科等の検討が必要である。就職先や講義の内容などすべてを見直す必要がある。(福田学長)

(原委員長)

・ワード講座等の人数が集まらなくなっていることについてどう考えているか。高校でも学んでおり学生のニーズを捉えているか。

⇒アンケートにより捉えていると考えている。去年は、学生主催の会合と講座日が重なってしまった。今年は開催日を複数用意し対応する予定である。(矢嶋総務課長)

(小俣委員)

・報道によると、来年から親の収入に応じて大学の授業料や入学金が安くなる時いている。都留文科大学は授業料が安いと評判であるが、国の制度により他大学も安くなるとすれば学生が集まらなくなるのではないか。

⇒授業料については、本学が一番安いところにあるが、全国的には上げる方向に動いている。来年からは親の所得の低い人に対しての授業料の免除が始まるが、一般の学生には影響がないものと考えている。(矢嶋総務課長)

(村田委員)

・大学の評価システム等について、どのように運用されているか。健康診断や科研費なども評価に加えられるか。また、SATについて学生数の増加についてどう考えているか。

⇒教員評価システムについては他大学の事例を参考にしながら探っている状況である。今後、様々な事例からより良いものとしていきたい。(矢嶋総務課長)

⇒SATについては各小中学校との協議の中で、学校側と人数の調整を行っている。数値目標に挙げているので評価は低くなってしまいが、現状で問題はないと考えている。

(藤江学生課長)

⇒教員免許をとる者が減っているのでSATも減ってきている。学年をずらして派遣を行うなど、状況も考慮し増やしていく予定である。(福田学長)

⇒教員免許を取る人は減ってきてはいるが、教員に実際になる人は増えてきている。(藤江学生課長)

○その他、協議事項について

(事務局)

・評点について、法令遵守に関する目標を達成するための措置について様々な周知実施を行っていることから3点から4点に上げていいのではないか。

⇒異議なし。(一同)

○とりまとめ、最終評価について

協議を踏まえ「中期計画の進捗は概ね順調である」のBに評価とする。(原委員長)

⇒異議なし。(一同)

(2) 第二期中期目標に係る業務の実績に関する報告書について【中期目標期間(中間見込)評価】について

大学事務局が評点の低い項目及び事業年度評価と中間見込評価で点数が異なる項目について説明(石川経営企画課長)

○各委員からの意見等

(小俣委員)

・今までは都留市経営者連絡協議会において都留文科大学に従業員の募集をかけていなかったが、これからは募集をかけてみたいと考えている。都留文科大学の学生は基礎能力が高いので、専門性等の知識は無くても成長が早いと伺った。今後、学生の新たな就職先として募集をかけたいと考えている。

(川村委員)

・都留文科大学は優秀な学生が多い。勉強だけでなく、それ以外においてもトップクラスであると考えている。以前、とある大学生にどうして都留文科大学に入学したかと聞くと一生懸命勉強と部活に取り組み入学することができたと話しており、とても感動したことを覚えている。都留文科大学は全国各地、遠いところからたくさんの方が集まってきたイメージが強い。しかし、一方で山梨の人が都留文科大学を目指すというのはあまり聞いたことがない。県内の学生が都留文科大学を目指すような大学作りなど、どのような取り組みを考えているか。

⇒都留興譲館高校と連携を行っているが、それ以外の高校とも入試センターを通して幅広い繋がりを検討している。(阿毛副学長)

(村田委員)

・中間見込評価には評定が低いものについて「～したい。」との説明であるが、見込みや予想とは違うと思う。根拠のある数値でお願いしたい。

○とりまとめ、最終評価について

協議を踏まえ、全体評価について法人の評価見込のとおり「中期計画の進捗は順調である」のA評価とする。(原委員長)

⇒異議なし。(一同)

議事終了

6. その他

特になし

(事務局)

今回の評価結果については、原委員長に諮りながら文言等を調整し、原案を法人へ通知し、法人の意見を求めた上で、評価結果書として確定する。後に、報告を受けた市長は9月定例会市議会へ報告する流れとなっている。(企画課長)

7. 閉会

(午後 4 時 16 分閉会)